

こばやし よういちろう
小林 陽一郎 (数理物質科学研究科 化学専攻 1年)



今こそ、つくばに「お笑い」文化を！

2017年7月16日、映画監督ジョージ・A・ロメロ氏が亡くなりました。ロメロ監督は「キング・オブ・ホラー」と呼ばれた所謂「モダン・ゾンビ」の始祖。ご存知のない方は驚くかもしれませんが、現在、我々が「ゾンビ」と聞いて想像する「人間の肉を食べ、噛まれた人間はゾンビになる、その脳を破壊されるまで動き続ける怪物」というイメージは、このロメロが1968年に撮った『ナイト・オブ・ザ・リビングデッド』という映画一本によって決定されました。この『ナイト・オブ・ザ・リビングデッド』以前の「ゾンビ」は人肉を食らうこともなければ、人を襲うこともない、ただの行ける死体に過ぎなかったのです。

ロメロの描く「ゾンビ」は常に「大衆」のメタファーでした。興味深いのは、ロメロが『ナイト・オブ・ザ・リビングデッド』の次に撮った『ゾンビ』。ここでのゾンビには生前の行動や習慣を再現するという設定が付け加えられ、『ゾンビ』におけるゾンビはショッピングモールに殺しました。公開当時、特に娯楽施設の少ないアメリカ田舎にて、若者や家族連れは休みの一日をショッピングモールで過ごしたそう。つまり、ロメロの目は「消費を娯楽として楽しむ大衆」が、無意識にショッピングモールを彷徨う「ゾンビ」に見えていたのです。

私はつくばに来てから、もう5年が経ちましたが、つくばに来て1年目の私は完全にロメロの描いていた「ゾンビ」そのものでした。休日になると、遊ぶ所、時間を潰す場所を探して彷徨い、結局はショッピングモール・イースつくばに辿り着くと、買い物や映画鑑賞と食事を済ませて夜に帰る。もしかして、つくばには、かつての私のようなゾンビが多いのではないかと思えます。つくばには素晴らしい研究施設が立ち並ぶ一方、皆で集まる場所や娯楽施設、気軽

に楽しめる文化的な「場」が少ないことに気が付きます。そこで、我々『T-1グランプリ運営委員会』は立ち上がりました。お笑いグランプリ『T-1グランプリ』を企画運営する弊委員会は、本気で「お笑い」をもって、つくばを面白くする、娯楽の場所を作ることを目指して活動をしています。

ゾンビの事より、結局『T-1』って何？

『T-1グランプリ』(T-1)は、毎年12月に開催している、漫才やコントなどの大会です。本企画は今年度で4回目の開催となり、毎年、筑波大生の他、他大学の学生、一般の方などの参加があります。グランプリは当日、来場されたお客様が投票によって決定され、グランプリを獲得された方には優勝賞金は3万円を授与しています。年々、拡大し、いつの間にか「つくば唯一」どころか「茨城県で唯一」のお笑いグランプリとなった『T-1グランプリ』、多くの方の「お笑い」を通じた表現の場として機能するよう運営一同、気を引き締めて企画を進めています。

また、より多くの方に「お笑い」を体験してもらおうと「お笑い」を科目と捉えた「解答が面白ければ面白いほど得点上がる期末試験『全国統一大学生お笑いテスト』というスピンオフ企画も実施し、本企画はつくば市問わずSNSなどを通じて多くの方に参加していただいています。

今年度は、雙峰祭の企画として「大喜利」をアトラクション化した「つくば大喜利ランド」の開園など、さまざまな企画を行う弊委員会、確かに何度も挑戦と失敗を重ねていますが、その挫折の度に筑波大学発のコンテンツとしてつくばを「お笑い」によって盛り上げようという一心で、それこそゾンビのように蘇り、動き続けています。

一度、お笑いをしてみたい人の大会への参加はもちろんのこと、運営スタッフも随時、募集しております。ぜひ、我々と一緒に、つくば市を、いや全国を盛り上げていきましょう。

T-1グランプリ2017実行委員会
問合せ先: t1grandprix2017@gmail.com
Twitter: @T_1grandprix
Facebook: @tkbt1grandprix



昨年度の『T-1グランプリ2016』の優勝者は、この日初めて漫才を披露したという筑波大生コンビ「いかにダグラッシューズ」さんでした。

問 国語 ⑨
小説家の夏目漱石は「I love you」を「月は綺麗ですね」と訳したという逸話があります。その話を踏まえて、「I don't like you」を訳さない。(100文字)

訳 「月は綺麗ですね」

SNSで大きな反響をいただいた『全国統一大学生お笑いテスト』の優秀解答の一つ。まだまだ解答募集中です！